

準優勝 新戦力が躍動

敢闘賞 シヨベ・モハメド

優秀選手賞 土屋来風

全日本大学バスケットボール新人戦Ⅱ7月8～14日、札幌市・北ガスアリーナ札幌46

昨年の雪辱は果たせなかった。専大は準決勝で優勝候補・日体大に勝利。勢いに乗ると思われたが中大との決勝は序盤からミスが続き、58-64で試合終了。2年連続の準優勝で、悔し涙を流した。個人賞はシヨベ・モハ



決勝で14得点の活躍を見せたアピア

に、決勝はバスがつながらず、ターンオーバーを重ねた。そんななか、力を発揮したのが新戦力のアピア・パトリック真(商1・福岡第一高)。果敢な攻撃で第2Qに得点を量産し、「短い時間で大量得点が一番成長できた部分。それを自信に、今後も頑張っていきたい」と手応えをつかんだ。大会通算78リバウンド、10ブロックとインサイドを支配したシヨベは、「リバウンドは自分の仕事なので、強く意識していた」と話した。得点とアシストでチームをけん引した土屋は「まだミスも多い。リーグ戦でも得点に絡んで、注目される選手になりたい」と語った。

チームは今大会を通じて急成長を遂げた。佐々木監督は「ミスを少なくし、どれだけチームでカバーできるかが課題」と次を見据えた。(高野葵・文3Ⅱ写真も)

73kg級 鎌倉3位

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会Ⅱ9月7～8日、群馬県・高崎アリーナ

男子73kg級で鎌倉啓太郎(経営2・習志野高)3位となった。鎌倉は、7月の東京都ジュニア体重別選手権大会で優勝。全日本ジュニアの出場権を獲得し、周囲への感謝を忘れず、着実に準備を進めていく」と今大会に臨んだが、頂点には届かなかった。「やることはやった結果なので後悔はない。成長を感じられた部分もあったが、準決勝で課題も見つかった。気持ちを切り替えて頑張ります」と語った。(富田心暖・ネット情報2)



二つの大会で結果を残した鎌倉。写真は東京都ジュニア体重別選手権大会。撮影Ⅱ北原倅多(文3)

カヌー部

シーズン初戦で中川が自己ベスト

シーズン本番を迎えたカヌー部。8月の関東学生選手権を経て、全日本学生選手権など大会が続く。関東学生カヌースタートを記録した。中川は得意の200リント選手権大会(8月8～11日、江東区)のカヤックシングル(K-1)に中川太陽(商4・桑名西高・田熊悠来(商2・島

懸命にオール漕ぎ自身の力出し切る



自己ベストを更新した中川。撮影Ⅱ竹田一爽(文3)

とができなかった。200リも苦戦し、強風の準決勝は7位。波に耐えながら漕ぐことができなかった」と悔しいレースになった。しかし、最後まで諦めず、懸命にオールを漕ぐ姿を見せた。(中島胡春・ネット情報2、富田)

体育会各部による地域貢献活動

バスケ SOARERS CUP開催

カテゴリーを超えて対戦

リーグのユースチームと高校バスケットボール部が垣根を超えて対戦する「SOARERS CUP(ソアラーズカップ)」2024が7月27、28日、生田キャンパスの総合体育館で開かれた。今年はU15チームもエントリーし、9チームによるリーグ戦の結果、U18川崎ブレイブサンダースが2代目王者に輝いた。



【専大vs立花学園高】ドリブルをしかける齋達也(文4・東北学院高) 撮影Ⅱ高野



力を合わせて部員を押す生徒

多摩桜の丘学園が訪問 相撲部を見学 部員と交流

都立多摩桜の丘学園(東京都多摩市)の知的障害教育部門中学部の生徒25人が校外学習の一環として、6月28日、生田キャンパスの相撲道場を訪問。相撲部の稽古を見学し、部員との取組を体験した。

相撲部と多摩桜の丘学園との交流は5年前から行われている。部員たちが同学園を訪れることもあり、相互に行き来しながら、交流を続けている。

当日は、蒲田勝太監督、部員の林田泰嘉(経営4・日体大柏高、鈴木霸都(経営2・明大付中野高)、山田珠大(文2・埼玉栄高、OBの石岡優力さん(院文修3)の5人が生徒たちを迎えた。



【U18川崎vs専大附属高】果敢にシュートを打つ

100才超の部員には2人がかりで挑んだ。部員を土俵の外に押し出すと見学している生徒から歓声が上がっていた。



大会中には、本学男子バスケ部と立花学園高(神奈川県)が対戦した。U15チームとして岐阜県ジュニアクラブSEINO Bruinsも参加した。

ONE DAY TEAM MATEは、小・中学生らと対戦した経験をもとに、今後につなげてほしいと語った。

11月には水球教室、来年3月にはアメフト教室を予定。詳細・申し込みは専用HPでご確認ください。



交流する水泳部員と子どもたちⅡ7月13日、水泳教室 撮影Ⅱ米山初佳(文1)

「ONE DAY TEAM MATE 2024」